

令和4年1月13日公表

令和3年度 食料・農林水産業・農山漁村に関する意識・意向調査 加工・業務用野菜の実需者ニーズに関する意識・意向調査結果

本調査は、食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業各1,000事業所を対象^(注1)として、令和3年9月下旬から10月中旬にかけて、加工・業務用野菜^(注2)に関する意識・意向に関して調査を実施し、食品製造業422事業所、食品卸売業461事業所、食品小売業412事業所、外食産業396事業所から回答を得た結果である。

なお、本調査における調査対象、加工・業務用野菜の定義の詳細は2ページに記載した。

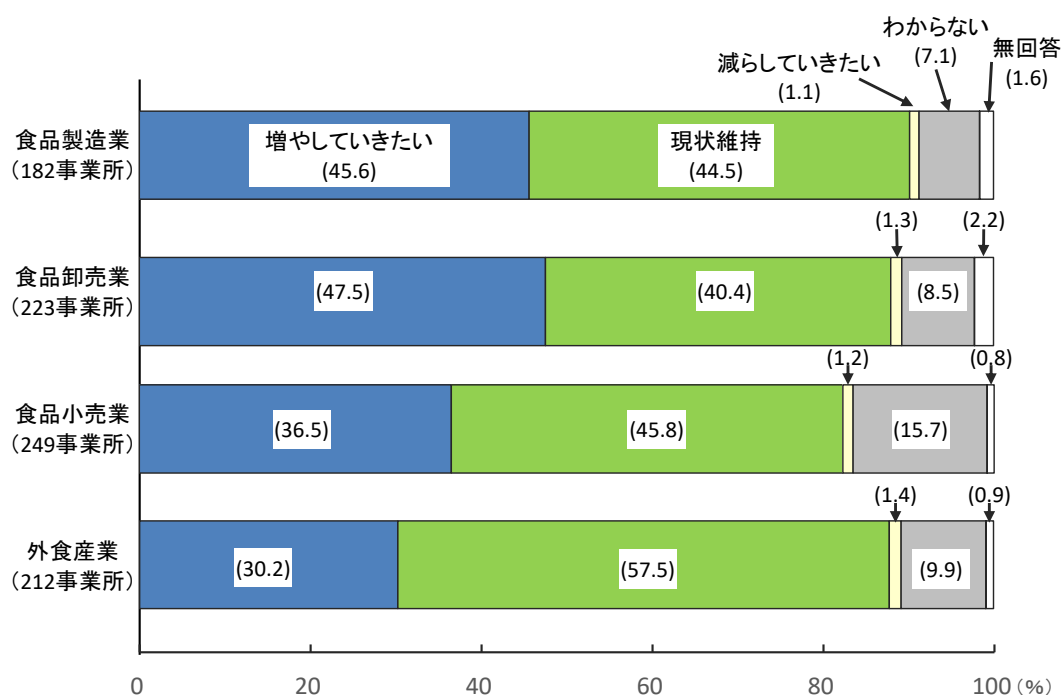
【調査結果】

1 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向

加工・業務用野菜の取扱いがある事業所において、国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向を「増やしていきたい」と回答した割合は、食品製造業では45.6%、食品卸売業では47.5%、食品小売業では36.5%、外食産業では30.2%であった。

また、「現状維持」と回答した割合は、食品製造業では44.5%、食品卸売業では40.4%、食品小売業では45.8%、外食産業では57.5%であった。（詳細は、統計表10ページ参照）

図1 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が100.0%とならない場合がある（以下同じ。）。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/finding/mind/index.html> 】

注：1 本調査においては、加工・業務用野菜を取り扱う可能性を有すると考えられる食品流通・加工に係る業種・業界を調査対象とするため、生菓子製造業、清涼飲料水製造業など、必ずしも野菜の取扱いが多いとは限らない事業所も含めて幅広く調査を実施した。

2 本調査における加工・業務用野菜とは、家庭以外の場所で加工・調理された野菜全てをいう。

例1) 食品製造業において、カット野菜、ミールキット（小売店の生鮮コーナーにあるミックスサラダ、野菜炒め用にミックスして包装したものやBBQ用セットなど）等の原料として利用する目的で仕入れた野菜

例2) 食品卸売業において、食品製造業や外食向けに卸す野菜、小売で総菜用として利用された野菜（原体のまま家庭消費向けに販売される以外の野菜）

例3) 食品小売業において、カット野菜、ミールキット、冷凍（冷凍枝豆など）、粉末（スープ用粉末など）、ペースト（餡やジャムなど）などの形態で仕入れた野菜。また、上記形態にインスタで加工して販売した野菜

例4) 外食、中食産業において、材料として利用された野菜（総菜、弁当、各種料理など）

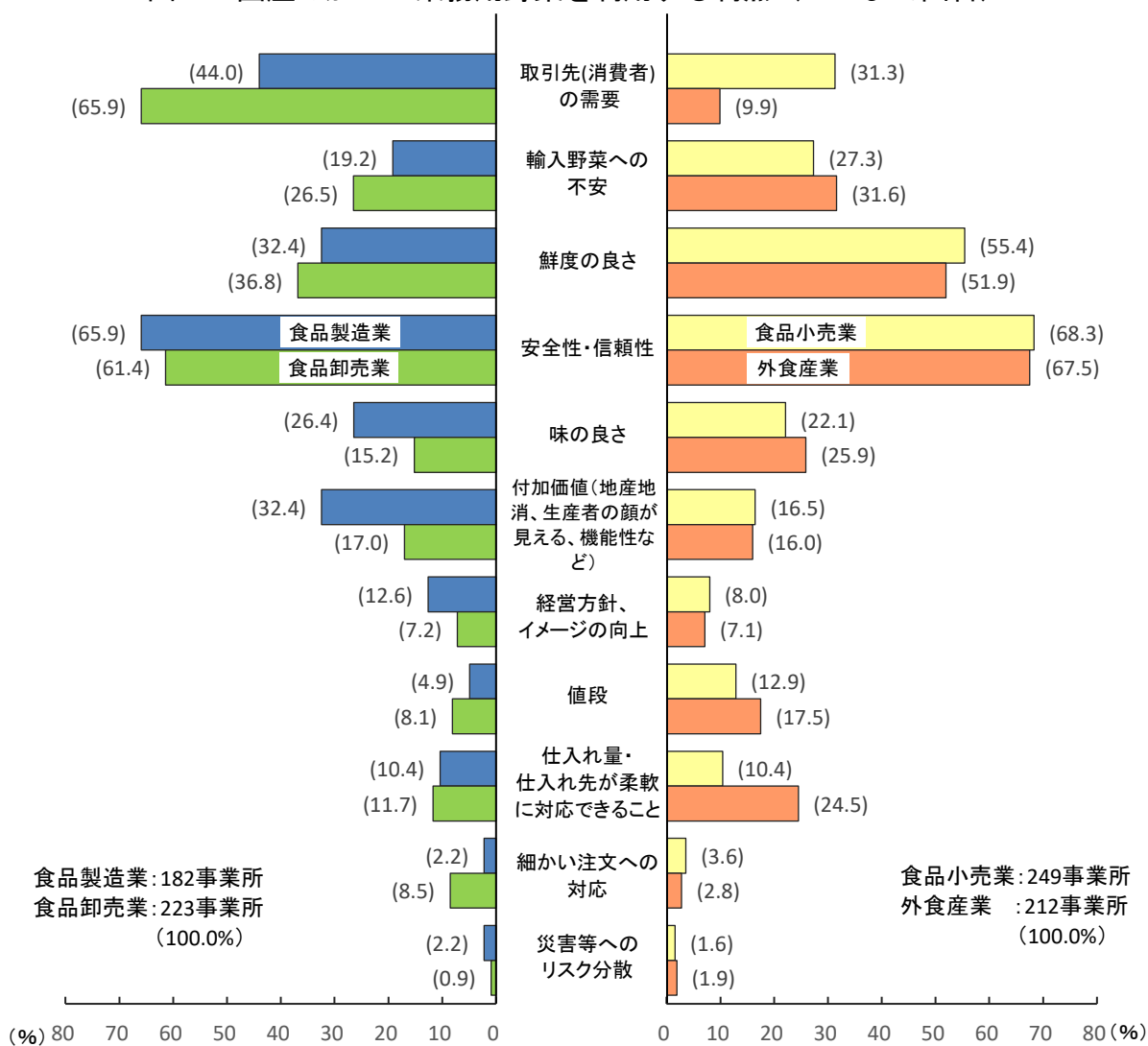
2 国産の加工・業務用野菜を利用する利点

加工・業務用野菜の取扱いがある事業所において、国産の加工・業務用野菜を利用する利点については、「安全性・信頼性」と回答した割合は、食品製造業では65.9%、食品卸売業では61.4%、食品小売業では68.3%、外食産業では67.5%であった。

また、食品製造業及び食品卸売業では、「取引先（消費者）の需要」がそれぞれ44.0%、65.9%であった。

一方、食品小売業及び外食産業では、「鮮度の良さ」がそれぞれ55.4%、51.9%であった。（詳細は、統計表11 ページ参照）

図2 国産の加工・業務用野菜を利用する利点（3つまで回答）



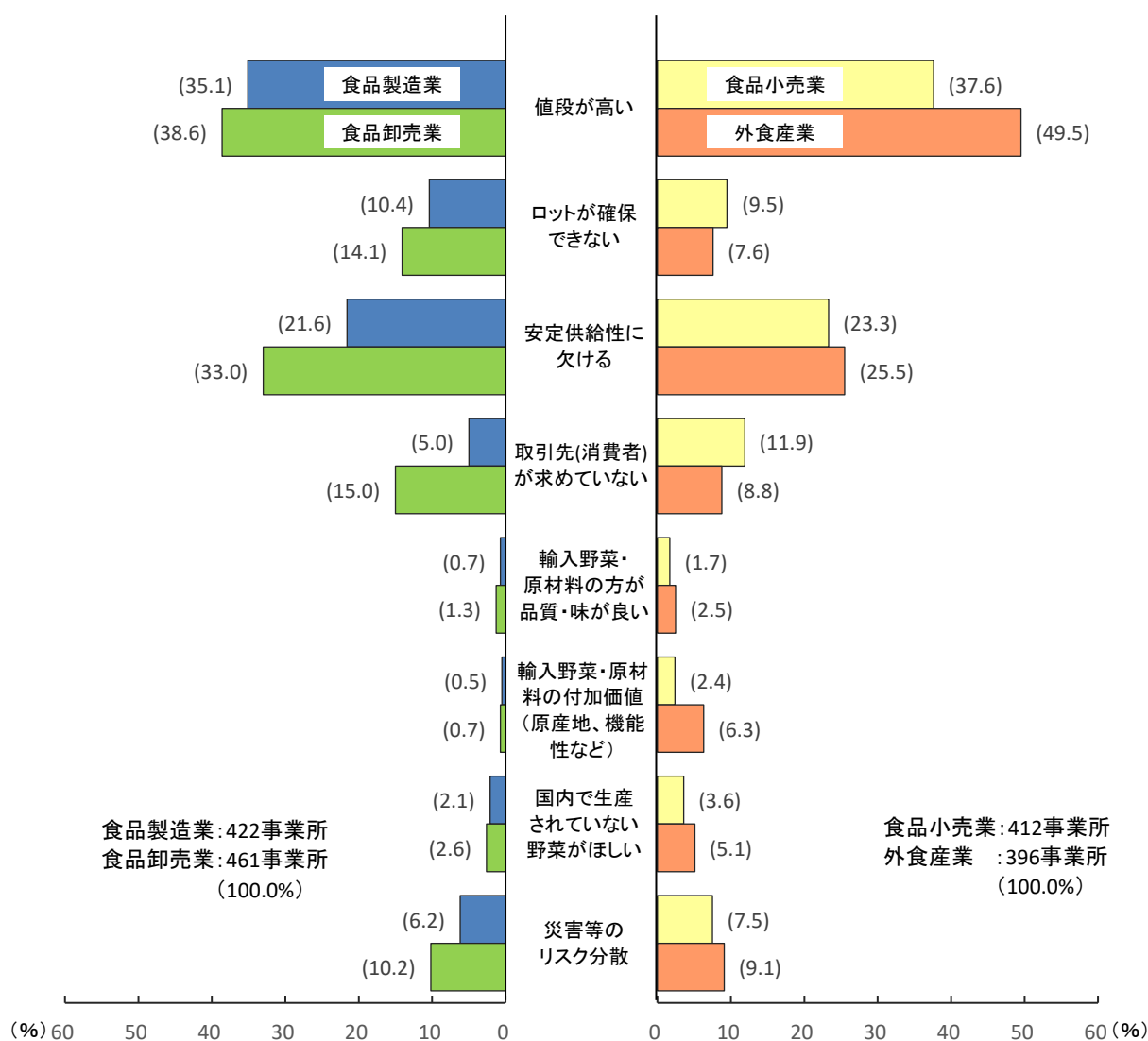
注：回答のうち、「その他」、「利点はない」及び「無回答」は表示していない。

3 国産の加工・業務用野菜を利用する際の課題、取扱いを増やさない理由

国産の加工・業務用野菜を利用する際の課題については、各業種とも「値段が高い」と回答した割合が最も高く、食品製造業では35.1%、食品卸売業では38.6%、食品小売業では37.6%、外食産業では49.5%であった。

次いで「安定供給性に欠ける」と回答した割合は、食品製造業では21.6%、食品卸売業では33.0%、食品小売業では23.3%、外食産業では25.5%であった。（詳細は、統計表13 ページ参照）

図3 国産の加工・業務用野菜を利用する際の課題、取扱いを増やさない理由
(3つまで回答)



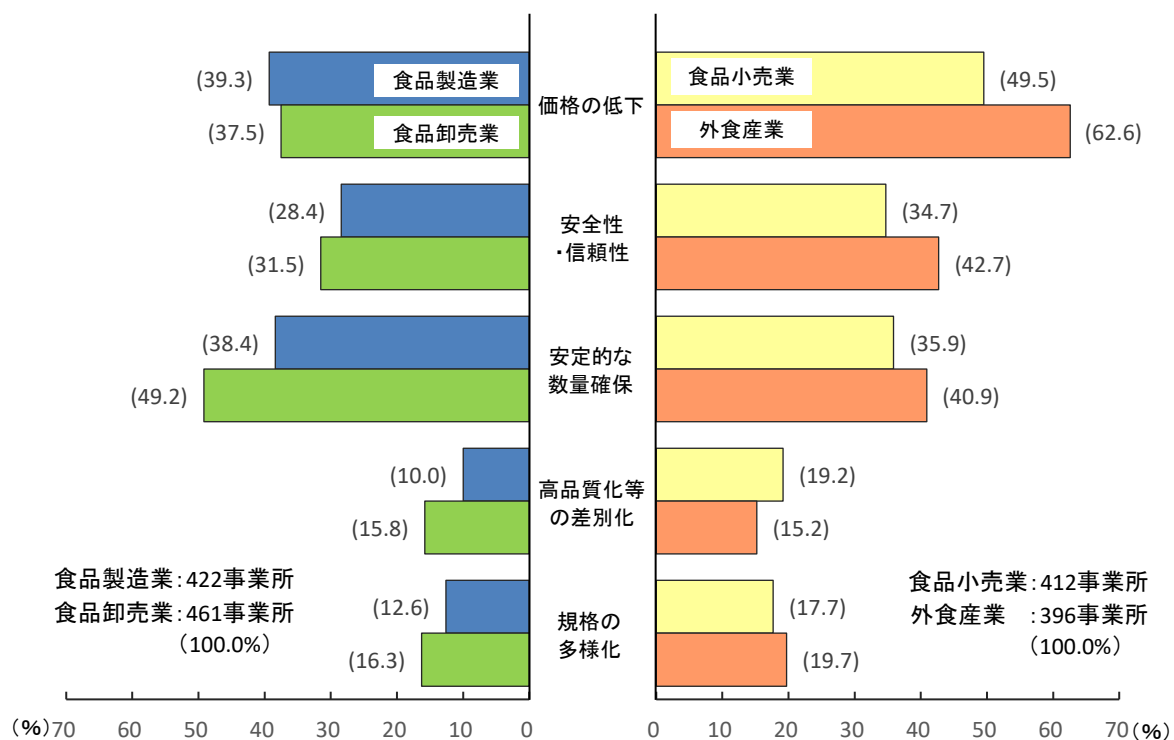
注：回答のうち、「その他」、「特になし」及び「無回答」は表示していない。

4 国産の加工・業務用野菜の利用増加のために必要なこと

国産の加工・業務用野菜の利用増加のために必要なことについては、「価格の低下」と回答した割合は、食品製造業では39.3%、食品卸売業では37.5%、食品小売業では49.5%、外食産業では62.6%であった。

また、「安定的な数量確保」と回答した割合は、食品製造業では38.4%、食品卸売業では49.2%、食品小売業では35.9%、外食産業では40.9%であった。（詳細は、統計表13ページ参照）

図4 国産の加工・業務用野菜の利用増加のために必要なこと（3つまで回答）



注：回答のうち、「その他」、「特になし」及び「無回答」は表示していない。

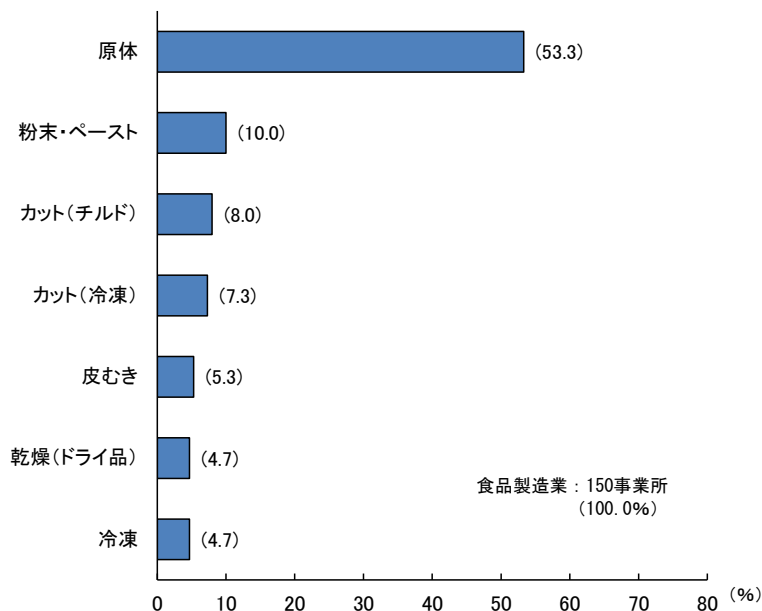
5 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（1位の品目）

（詳細は、統計表 17 ページ参照）

(1) 食品製造業

加工・業務用野菜の取扱いがある事業所において、仕入れている品目の形態については、食品製造業では「原体」と回答した割合が53.3%と最も高く、次いで「粉末・ペースト」（10.0%）、「カット（チルド）」（8.0%）の順であった。

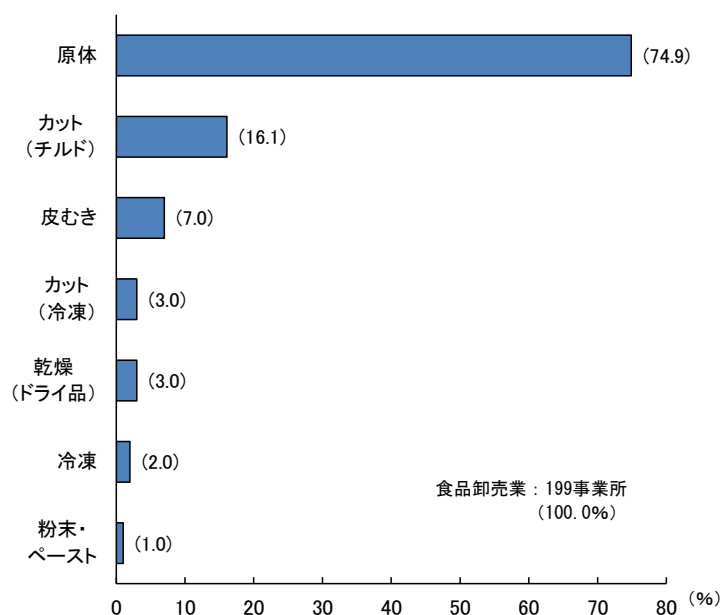
図5 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（食品製造業）（複数回答）



(2) 食品卸売業

食品卸売業では、「原体」と回答した割合が74.9%と最も高く、次いで「カット（チルド）」（16.1%）、「皮むき」（7.0%）の順であった。

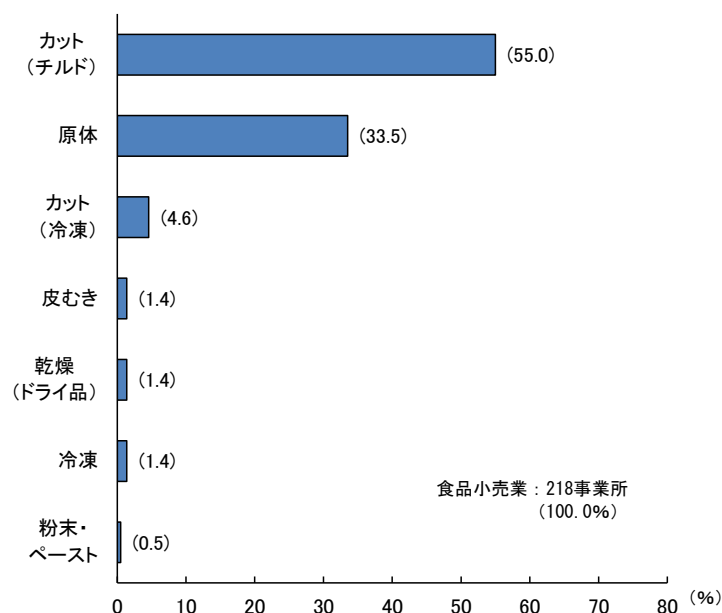
図6 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（食品卸売業）（複数回答）



(3) 食品小売業

食品小売業では、「カット（チルド）」と回答した割合が55.0%と最も高く、次いで「原体」（33.5%）、「カット（冷凍）」（4.6%）の順であった。

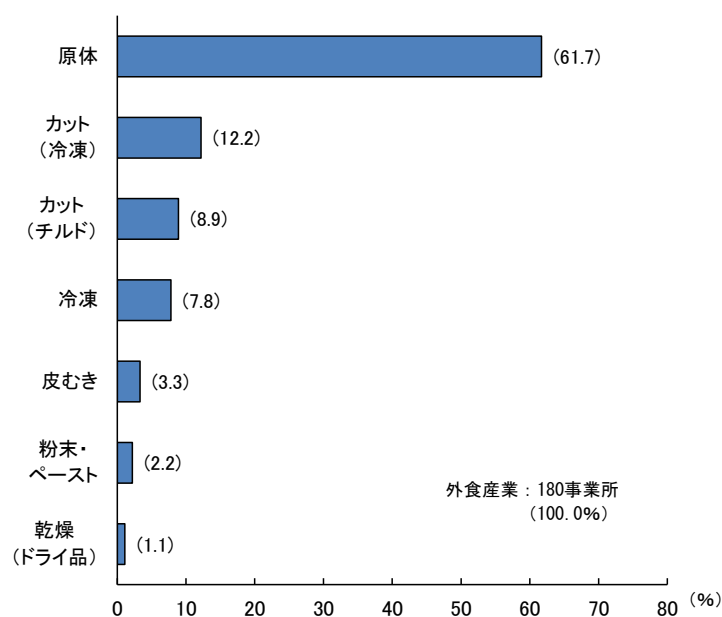
図7 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（食品小売業）（複数回答）



(4) 外食産業

外食産業では、「原体」と回答した割合が61.7%と最も高く、次いで「カット（冷凍）」（12.2%）、「カット（チルド）」（8.9%）の順であった。

図8 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（外食産業）（複数回答）



【 統 計 表 】

統計表一覧

	ページ
1 加工・業務用野菜の取扱い	10
2 加工・業務用野菜のうち、国産野菜・原材料の取扱い	10
3 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向	10
4 国産の加工・業務用野菜を利用する利点（3つまで回答）	11
5 国産の加工・業務用野菜のうち、今後利用を増やしたい・取り扱いたい品目 （3つまで回答）	12
6 国産の加工・業務用野菜を利用する際の課題、取扱いを増やさない理由（3つまで回答）	13
7 国産の加工・業務用野菜の利用増加のために必要なこと（3つまで回答）	13
8 加工・業務用野菜として、現在取扱っている品目	14
9 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（複数回答）	17
10 加工・業務用野菜の過去1年間の年間取扱量	18
11 加工・業務用野菜のうち、国産野菜・原材料の割合	20
12 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向	21
13 過去一年間の加工・業務用野菜の取扱総額	22
14 新型コロナウイルスの影響による、国産品の利用状況の変化 （令和2年1月以前との比較）	23
15 有機野菜の加工・業務用への利用に関する今後の意向	23
16 加工・業務用への国産有機野菜の利用に対する課題、利用していない理由 （3つまで回答）	24
17 加工・業務用向け有機野菜の利用増加のために必要だと思うこと（3つまで回答）	24

利用上の注意

- 1 回答者数は、各設問（各区分）の有効回答者数である。
- 2 回答の割合は、各設問（各区分）の回答者数計を100.0%とする割合である。
- 3 割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が100.0%とならない場合がある。
- 4 統計表に用いた記号「－」は、該当する選択肢を選んだ回答者がいないことを表す。
- 5 この統計表に掲載された数値を他に転載する場合には、「食料・農林水産業・農山漁村に関する意識・意向調査 加工・業務用野菜の実需者ニーズに関する意識・意向調査結果」（農林水産省）による旨を記載してください。

1 加工・業務用野菜の取扱い

区 分	回答者数	事業所	
		ある	ない
		%	%
食 品 製 造 業	422	43.1	56.9
食 品 卸 売 業	461	48.4	51.6
食 品 小 売 業	412	60.4	39.6
外 食 産 業	396	53.5	46.5

注：加工・業務用野菜とは、家庭以外の場所で加工・調理された野菜全てをいう（以下同じ。）。

2 加工・業務用野菜のうち、国産野菜・原材料の取扱い

（1で「ある」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	事業所			
		ある	ない	わからない	無回答
		%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	93.4	3.3	2.2	1.1
食 品 卸 売 業	223	95.5	1.8	1.8	0.9
食 品 小 売 業	249	88.4	1.2	10.0	0.4
外 食 産 業	212	82.5	7.1	10.4	-

3 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向

（1で「ある」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	事業所				
		増やして いきたい	現状維持	減らして いきたい	わからない	無回答
		%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	45.6	44.5	1.1	7.1	1.6
食 品 卸 売 業	223	47.5	40.4	1.3	8.5	2.2
食 品 小 売 業	249	36.5	45.8	1.2	15.7	0.8
外 食 産 業	212	30.2	57.5	1.4	9.9	0.9

4 国産の加工・業務用野菜を利用する利点（3つまで回答）

（1で「ある」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	取引先(消費者)の需要	輸入野菜への不安	鮮度の良さ	安全性・信頼性	味の良さ
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	44.0	19.2	32.4	65.9	26.4
食 品 卸 売 業	223	65.9	26.5	36.8	61.4	15.2
食 品 小 売 業	249	31.3	27.3	55.4	68.3	22.1
外 食 産 業	212	9.9	31.6	51.9	67.5	25.9

区 分	付加価値（地産地消、生産者の顔が見える、機能性など）	経営方針、イメージの向上	値段	仕入れ量・仕入れ先が柔軟に対応できること	細かい注文への対応	災害等へのリスク分散
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	32.4	12.6	4.9	10.4	2.2	2.2
食 品 卸 売 業	17.0	7.2	8.1	11.7	8.5	0.9
食 品 小 売 業	16.5	8.0	12.9	10.4	3.6	1.6
外 食 産 業	16.0	7.1	17.5	24.5	2.8	1.9

区 分	その他	利点はない	無回答
	%	%	%
食 品 製 造 業	3.3	-	3.3
食 品 卸 売 業	1.3	1.8	2.2
食 品 小 売 業	1.2	1.2	1.6
外 食 産 業	2.8	2.4	4.2

5 国産の加工・業務用野菜のうち、今後利用を増やしたい・取扱いたい品目（3つまで回答）

区 分	回答者数	だいこん	にんじん	ごぼう	はくさい	キャベツ
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	422	8.5	9.0	4.0	3.8	6.4
食 品 卸 売 業	461	9.8	10.8	8.0	5.0	17.6
食 品 小 売 業	412	10.2	11.2	5.3	7.5	22.6
外 食 産 業	396	12.6	7.1	6.6	5.6	19.9

区 分	ほうれんそう	ねぎ	ブロッコリー	レタス	トマト	かぼちゃ
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	4.3	3.3	2.4	3.3	4.5	6.4
食 品 卸 売 業	6.1	7.4	6.3	6.1	5.9	5.9
食 品 小 売 業	10.4	8.7	11.9	11.2	11.2	6.6
外 食 産 業	7.8	20.2	9.1	10.1	11.6	7.1

区 分	えだまめ	さといも	たまねぎ	にんにく	その他	特になし
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	5.2	1.9	9.2	4.0	14.0	55.0
食 品 卸 売 業	2.8	5.6	10.8	4.6	5.9	49.2
食 品 小 売 業	4.9	6.6	10.2	5.3	3.4	42.7
外 食 産 業	7.6	8.1	19.2	9.8	6.8	33.8

区 分	無回答
	%
食 品 製 造 業	3.3
食 品 卸 売 業	2.8
食 品 小 売 業	3.2
外 食 産 業	2.3

6 国産の加工・業務用野菜を利用する際の課題、取扱いを増やさない理由（3つまで回答）

区分	回答者数	値段が高い	ロットが確保できない	安定供給性に欠ける	取引先(消費者)が求めている	輸入野菜・原材料の方が品質・味が良い
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	422	35.1	10.4	21.6	5.0	0.7
食品卸売業	461	38.6	14.1	33.0	15.0	1.3
食品小売業	412	37.6	9.5	23.3	11.9	1.7
外食産業	396	49.5	7.6	25.5	8.8	2.5

区分	輸入野菜・原材料の付加価値(原産地、機能性など)	国内で生産されていない野菜がほしい	災害等のリスク分散	その他	特になし	無回答
	%	%	%	%	%	%
食品製造業	0.5	2.1	6.2	8.8	41.0	7.6
食品卸売業	0.7	2.6	10.2	4.3	31.2	5.9
食品小売業	2.4	3.6	7.5	4.9	37.1	6.3
外食産業	6.3	5.1	9.1	7.1	29.3	5.6

7 国産の加工・業務用野菜の利用増加のために必要なこと（3つまで回答）

区分	回答者数	価格の低下	安全性・信頼性	安定的な数量確保	高品質化等の差別化	規格の多様化
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	422	39.3	28.4	38.4	10.0	12.6
食品卸売業	461	37.5	31.5	49.2	15.8	16.3
食品小売業	412	49.5	34.7	35.9	19.2	17.7
外食産業	396	62.6	42.7	40.9	15.2	19.7

区分	その他	特になし	無回答
	%	%	%
食品製造業	4.3	30.1	7.6
食品卸売業	3.3	21.5	5.6
食品小売業	1.7	22.6	4.6
外食産業	3.0	13.6	3.3

8 加工・業務用野菜として、現在取扱っている品目

(1で「ある」と回答した者のみ回答)

(1) 取扱量1位の品目

区 分	回答者数	だいこん	にんじん	ごぼう	はくさい	キャベツ
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	11.5	8.8	1.6	3.8	6.6
食 品 卸 売 業	223	7.6	3.6	6.7	1.3	21.5
食 品 小 売 業	249	4.8	2.4	2.0	1.2	46.2
外 食 産 業	212	9.0	1.9	1.9	2.8	20.3

区 分	ほうれんそう	ねぎ	ブロッコリー	レタス	トマト	かぼちゃ
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	1.1	2.7	0.5	1.6	1.1	2.2
食 品 卸 売 業	0.9	4.9	0.4	1.8	4.9	0.9
食 品 小 売 業	-	3.2	0.4	4.4	2.4	0.8
外 食 産 業	2.4	14.2	1.9	6.6	2.8	0.5

区 分	えだまめ	さといも	たまねぎ	にんにく	その他	無回答
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	1.6	0.5	7.7	1.1	29.7	17.6
食 品 卸 売 業	0.4	0.4	22.9	1.8	9.0	10.8
食 品 小 売 業	1.6	1.6	10.4	0.4	5.6	12.4
外 食 産 業	5.2	2.4	7.5	0.9	4.7	15.1

(2) 取扱量2位の品目

区 分	回答者数	だいこん	にんじん	ごぼう	はくさい	キャベツ
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	6.0	11.0	3.3	1.1	2.7
食 品 卸 売 業	223	6.7	13.5	2.2	4.9	10.8
食 品 小 売 業	249	6.4	8.0	2.4	2.0	10.0
外 食 産 業	212	7.5	3.3	2.4	2.8	7.5

区 分	ほうれんそう	ねぎ	ブロッコリー	レタス	トマト	かぼちゃ
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	0.5	2.2	0.5	0.5	2.7	2.7
食 品 卸 売 業	0.4	5.8	1.3	3.1	2.7	2.2
食 品 小 売 業	1.2	5.2	2.8	24.5	3.6	0.8
外 食 産 業	1.9	9.4	4.2	7.5	3.3	2.8

区 分	えだまめ	さといも	たまねぎ	にんにく	その他	該当なし
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	0.5	0.5	9.3	1.6	13.2	7.1
食 品 卸 売 業	0.4	4.9	11.2	2.2	5.8	4.0
食 品 小 売 業	2.4	1.6	9.2	0.4	1.6	3.2
外 食 産 業	2.8	2.8	10.4	0.5	7.1	1.9

区 分	無回答
	%
食 品 製 造 業	34.1
食 品 卸 売 業	17.5
食 品 小 売 業	14.5
外 食 産 業	21.7

8 加工・業務用野菜として、現在取扱っている品目（続き）

（1で「ある」と回答した者のみ回答）

(3) 取扱量3位の品目

区 分	回答者数	だいこん	にんじん	ごぼう	はくさい	キャベツ
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	4.4	5.5	4.4	1.1	3.8
食 品 卸 売 業	223	6.7	12.1	4.0	4.0	10.8
食 品 小 売 業	249	10.4	8.8	1.6	1.6	6.4
外 食 産 業	212	5.7	10.8	2.8	1.4	3.3

区 分	ほうれんそう	ねぎ	ブロッコリー	レタス	トマト	かぼちゃ
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	2.7	1.6	0.5	1.6	1.1	2.7
食 品 卸 売 業	1.3	3.6	0.9	2.7	1.8	3.1
食 品 小 売 業	4.8	9.6	2.4	4.4	4.4	2.4
外 食 産 業	3.8	6.1	1.9	4.2	6.1	1.4

区 分	えだまめ	さといも	たまねぎ	にんにく	その他	該当なし
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	0.5	1.1	4.4	1.6	7.7	13.2
食 品 卸 売 業	1.8	0.4	6.7	1.3	5.8	9.0
食 品 小 売 業	6.0	2.4	6.4	0.8	3.6	6.4
外 食 産 業	1.9	2.4	7.5	6.1	3.3	6.6

区 分	無回答
	%
食 品 製 造 業	41.8
食 品 卸 売 業	23.8
食 品 小 売 業	17.3
外 食 産 業	24.5

9 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（複数回答）

（8で取り扱っている品目について回答した者のみ回答）

(1) 取扱量1位の品目

区分	回答者数	原体	カット (チルド)	カット (冷凍)	皮むき	乾燥 (ドライ品)
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	150	53.3	8.0	7.3	5.3	4.7
食品卸売業	199	74.9	16.1	3.0	7.0	3.0
食品小売業	218	33.5	55.0	4.6	1.4	1.4
外食産業	180	61.7	8.9	12.2	3.3	1.1

区分	粉末・ ペースト	冷凍	その他	無回答
	%	%	%	%
食品製造業	10.0	4.7	6.7	6.0
食品卸売業	1.0	2.0	1.5	1.5
食品小売業	0.5	1.4	2.8	1.8
外食産業	2.2	7.8	3.3	1.1

注：1 原体とは、生鮮野菜（ホール野菜）をいう。販売に当たり、販売単位の小型化のため、切断やパック包装等を行った野菜を含む。

2 原体以外については、野菜だけでなく、肉など他品目と組み合わせたミックス品を含む（以下同じ。）。

(2) 取扱量2位の品目

区分	回答者数	原体	カット (チルド)	カット (冷凍)	皮むき	乾燥 (ドライ品)
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	107	47.7	12.1	7.5	7.5	4.7
食品卸売業	175	60.0	14.9	2.9	13.1	1.1
食品小売業	205	29.8	41.0	14.1	3.4	1.0
外食産業	162	53.1	8.6	14.8	3.7	1.2

区分	粉末・ ペースト	冷凍	その他	無回答
	%	%	%	%
食品製造業	9.3	2.8	3.7	8.4
食品卸売業	1.1	1.7	2.3	10.9
食品小売業	-	5.9	1.5	4.9
外食産業	2.5	7.4	1.9	7.4

9 現在仕入れている加工・業務用野菜の形態（複数回答）（続き）

（8で取り扱っている品目について回答した者のみ回答）

(3) 取扱量3位の品目

区分	回答者数	原体	カット (チルド)	カット (冷凍)	皮むき	乾燥 (ドライ品)
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	82	47.6	9.8	18.3	2.4	2.4
食品卸売業	150	64.0	11.3	4.0	8.7	2.0
食品小売業	190	31.1	28.9	12.6	5.3	2.1
外食産業	146	54.1	4.1	10.3	6.8	3.4

区分	粉末・ ペースト	冷凍	その他	無回答
	%	%	%	%
食品製造業	8.5	1.2	6.1	7.3
食品卸売業	0.7	2.7	2.0	14.7
食品小売業	1.1	8.4	1.6	9.5
外食産業	2.1	8.9	3.4	6.8

10 加工・業務用野菜の過去1年間の年間取扱量

（8で取り扱っている品目について回答した者のみ回答）

(1) 取扱量1位の品目

区分	回答者数	1 t 未満	1～3	3～5	5～10	10～30
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	150	42.7	8.0	3.3	4.0	6.7
食品卸売業	199	26.1	11.6	5.5	5.5	14.1
食品小売業	218	58.3	1.8	0.5	1.4	0.9
外食産業	180	79.4	2.8	0.6	-	-

区分	30～50	50～100	100 t 以上	わからない	無回答
	%	%	%	%	%
食品製造業	2.7	2.7	18.0	6.0	6.0
食品卸売業	5.0	6.0	14.1	10.1	2.0
食品小売業	0.9	-	-	30.7	5.5
外食産業	-	-	-	12.2	5.0

10 加工・業務用野菜の過去1年間の年間取扱量（続き）

(2) 取扱量2位の品目

区 分	回答者数	1 t 未満	1 ~ 3	3 ~ 5	5 ~ 10	10 ~ 30
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	107	46.7	8.4	5.6	2.8	3.7
食 品 卸 売 業	175	29.1	12.6	6.3	5.7	12.6
食 品 小 売 業	205	55.1	2.4	1.5	2.0	0.5
外 食 産 業	162	73.5	0.6	0.6	-	-

区 分	30 ~ 50	50 ~ 100	100 t 以上	わからない	無回答
	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	1.9	6.5	8.4	7.5	8.4
食 品 卸 売 業	2.9	3.4	9.1	10.9	7.4
食 品 小 売 業	-	-	-	29.3	9.3
外 食 産 業	-	-	-	12.3	13.0

(3) 取扱量3位の品目

区 分	回答者数	1 t 未満	1 ~ 3	3 ~ 5	5 ~ 10	10 ~ 30
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	82	47.6	12.2	4.9	4.9	2.4
食 品 卸 売 業	150	34.0	12.0	4.7	6.7	10.7
食 品 小 売 業	190	55.8	2.6	1.1	1.1	-
外 食 産 業	146	73.3	-	1.4	-	-

区 分	30 ~ 50	50 ~ 100	100 t 以上	わからない	無回答
	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	2.4	3.7	6.1	8.5	7.3
食 品 卸 売 業	2.0	2.0	10.0	10.7	7.3
食 品 小 売 業	-	-	-	29.5	10.0
外 食 産 業	-	-	-	14.4	11.0

11 加工・業務用野菜のうち、国産野菜・原材料の割合

(8で取り扱っている品目について回答した者のみ回答)

(1) 取扱量1位の品目

区 分	回答者数	取扱なし	20%未満	20~40	40~60	60~80
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	150	5.3	11.3	2.7	6.0	0.7
食 品 卸 売 業	199	4.0	3.5	1.5	1.0	4.5
食 品 小 売 業	218	1.8	6.4	0.9	1.8	1.8
外 食 産 業	180	10.6	8.9	1.7	3.3	2.8

区 分	80~100	100%	わからない	無回答
	%	%	%	%
食 品 製 造 業	8.0	54.7	6.7	4.7
食 品 卸 売 業	11.6	70.9	2.0	1.0
食 品 小 売 業	8.3	48.2	25.7	5.0
外 食 産 業	13.9	46.1	10.0	2.8

(2) 取扱量2位の品目

区 分	回答者数	取扱なし	20%未満	20~40	40~60	60~80
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	107	5.6	9.3	1.9	2.8	0.9
食 品 卸 売 業	175	4.0	4.0	1.1	5.1	1.1
食 品 小 売 業	205	2.4	5.4	2.0	1.5	2.4
外 食 産 業	162	8.6	11.7	2.5	3.1	3.1

区 分	80~100	100%	わからない	無回答
	%	%	%	%
食 品 製 造 業	9.3	57.0	6.5	6.5
食 品 卸 売 業	8.0	65.7	2.9	8.0
食 品 小 売 業	5.4	46.3	26.8	7.8
外 食 産 業	8.6	46.3	9.3	6.8

(3) 取扱量3位の品目

区分	回答者数	取扱なし	20%未満	20~40	40~60	60~80
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	82	8.5	7.3	1.2	2.4	1.2
食品卸売業	150	3.3	4.0	2.7	8.0	1.3
食品小売業	190	3.2	6.3	2.6	3.2	2.1
外食産業	146	7.5	14.4	0.7	4.1	4.1

区分	80~100	100%	わからない	無回答
	%	%	%	%
食品製造業	7.3	62.2	6.1	3.7
食品卸売業	8.0	64.0	2.0	6.7
食品小売業	4.2	42.1	27.9	8.4
外食産業	8.9	45.2	9.6	5.5

12 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向

(8で取り扱っている品目について回答した者のみ回答)

(1) 取扱量1位の品目

区分	回答者数	増やしていきたい	現状維持	減らしていきたい	わからない	無回答
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	150	44.0	40.0	2.0	8.7	5.3
食品卸売業	199	46.2	44.2	1.5	7.0	1.0
食品小売業	218	34.4	44.0	0.5	14.2	6.9
外食産業	180	17.2	66.1	1.7	10.6	4.4

(2) 取扱量2位の品目

区分	回答者数	増やしていきたい	現状維持	減らしていきたい	わからない	無回答
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	107	37.4	43.0	2.8	9.3	7.5
食品卸売業	175	44.0	42.3	1.1	6.3	6.3
食品小売業	205	33.7	43.4	0.5	13.7	8.8
外食産業	162	15.4	65.4	1.2	9.9	8.0

12 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向（続き）

（8で取り扱っている品目について回答した者のみ回答）

(3) 取扱量3位の品目

区 分	回答者数	増やして いきたい	現状維持	減らして いきたい	わからない	無回答
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	82	34.1	46.3	3.7	9.8	6.1
食 品 卸 売 業	150	47.3	40.0	0.7	6.7	5.3
食 品 小 売 業	190	32.1	44.7	1.1	12.6	9.5
外 食 産 業	146	19.9	61.6	2.1	9.6	6.8

13 過去一年間の加工・業務用野菜の取扱総額

（1で「ある」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	取扱なし	100万円未満	100～300	300～500	500～1,000
	事業所	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	1.1	36.3	12.1	7.1	6.0
食 品 卸 売 業	223	-	17.5	8.1	8.5	7.2
食 品 小 売 業	249	1.6	48.2	10.8	1.6	3.2
外 食 産 業	212	0.9	69.3	14.6	-	-

区 分	1,000～3,000	3,000～5,000	5,000万～ 1億	1～3	3～5	5～10
	%	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	7.7	4.9	2.2	5.5	1.6	2.2
食 品 卸 売 業	15.7	6.3	9.4	9.9	2.7	3.6
食 品 小 売 業	2.0	0.8	0.8	0.4	-	-
外 食 産 業	-	-	-	-	-	-

区 分	10～30	30～50	50億円以上	わからない	無回答
	%	%	%	%	%
食 品 製 造 業	1.1	-	-	7.1	4.9
食 品 卸 売 業	2.7	0.4	-	4.5	3.6
食 品 小 売 業	-	-	-	27.3	3.2
外 食 産 業	-	-	-	13.2	1.9

14 新型コロナウイルスの影響による、国産品の利用状況の変化（令和2年1月以前との比較）

（1で「ある」と回答した者のみ回答）

(1) 国産品の使用量

区 分	回答者数	増加した	変わらない	減少した	わからない	無回答
		事業所 %	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	9.3	34.6	35.2	3.3	17.6
食 品 卸 売 業	223	7.2	35.0	42.2	4.9	10.8
食 品 小 売 業	249	14.1	36.9	17.3	18.9	12.9
外 食 産 業	212	2.4	23.6	50.9	3.8	19.3

(2) 国産品の割合

区 分	回答者数	増加した	変わらない	減少した	わからない	無回答
		事業所 %	%	%	%	%
食 品 製 造 業	182	6.6	41.8	17.0	6.0	28.6
食 品 卸 売 業	223	5.4	43.0	26.0	4.9	20.6
食 品 小 売 業	249	12.9	36.1	12.4	19.7	18.9
外 食 産 業	212	1.9	36.3	25.9	6.6	29.2

15 有機野菜の加工・業務用への利用に関する今後の意向

区 分	回答者数	増やしていきたい	現状維持	減らしていきたい	わからない	無回答
		事業所 %	%	%	%	%
食 品 製 造 業	422	13.0	22.3	0.7	53.3	10.7
食 品 卸 売 業	461	15.0	21.5	1.1	57.7	4.8
食 品 小 売 業	412	20.6	25.2	1.2	47.3	5.6
外 食 産 業	396	24.2	37.4	0.8	34.3	3.3

16 加工・業務用への国産有機野菜の利用に対する課題、利用していない理由（3つまで回答）

区分	回答者数	値段が高い	ロットが確保できない	安定供給性に欠ける	取引先（消費者）が求めている	輸入有機野菜・原材料の方が品質・味が良い
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	422	40.0	13.3	23.0	10.0	0.9
食品卸売業	461	47.5	25.6	42.7	21.9	0.2
食品小売業	412	48.8	13.6	26.5	10.7	1.0
外食産業	396	57.6	12.1	27.0	6.6	1.5

区分	輸入有機野菜・原材料の付加価値（原産地、機能性など）	国内で生産されていない有機野菜がほしい	災害等のリスク分散	その他	特になし	無回答
	%	%	%	%	%	%
食品製造業	1.7	1.7	2.8	5.9	35.5	11.6
食品卸売業	1.1	1.1	3.3	3.0	26.7	5.6
食品小売業	1.9	1.7	4.1	3.6	31.6	7.5
外食産業	2.8	4.0	6.1	5.3	27.5	5.8

17 加工・業務用向け有機野菜の利用増加のために必要だと思うこと（3つまで回答）

区分	回答者数	価格の低下	安全性・信頼性	安定的な数量確保	高品質化等の差別化	規格の多様化
	事業所	%	%	%	%	%
食品製造業	422	41.5	24.2	35.3	10.9	11.1
食品卸売業	461	43.0	26.9	50.5	14.1	13.4
食品小売業	412	51.9	30.3	33.7	12.9	15.3
外食産業	396	63.9	41.4	38.6	13.1	16.9

区分	その他	特になし	無回答
	%	%	%
食品製造業	2.6	31.3	10.2
食品卸売業	2.8	24.5	6.5
食品小売業	2.9	26.2	5.3
外食産業	3.5	16.9	3.8

【調査事項】

問1 現在、加工・業務用野菜の取扱いはありますか。

- 1 ある →問2へ
- 2 ない →問5へ

○問1「1 ある」選択者のみ

問2 現在取扱っている加工・業務用野菜のうち、国産野菜・原材料の取扱いはありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

問3 現時点での取扱いや、品目を問わず、国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向をお聞きします。

該当する項目を1つ選択してください。

- 1 増やしていきたい
- 2 現状維持
- 3 減らしていきたい
- 4 わからない

問4 国産の加工・業務用野菜を利用する主な利点は何だと思えますか。

特に該当する項目を3つまで選択してください。

- 1 取引先(消費者)の需要
- 2 輸入野菜への不安
- 3 鮮度の良さ
- 4 安全性・信頼性
- 5 味の良さ
- 6 付加価値(地産地消、生産者の顔が見える、機能性など)
- 7 経営方針、イメージの向上
- 8 値段
- 9 仕入れ量・仕入れ先が柔軟に対応できること
- 10 細かい注文への対応
- 11 災害等へのリスク分散
- 12 その他〔具体的に記入してください〕
- 13 利点はない

(全員)

問5 国産の加工・業務用野菜のうち、今後、利用を増やしたい品目はどれですか。

該当する項目を3つまで選択してください。現在、加工・業務用野菜を取扱っていない場合は今後取扱いたい品目を選択してください。

- 1 だいこん
- 2 にんじん
- 3 ごぼう
- 4 はくさい

- 5 キャベツ
- 6 ほうれんそう
- 7 ねぎ
- 8 ブロッコリー
- 9 レタス
- 10 トマト
- 11 かぼちゃ
- 12 えだまめ
- 13 さといも
- 14 たまねぎ
- 15 にんにく
- 16 その他〔具体的に記入してください〕
- 17 特になし

問6 国産の加工・業務用野菜を利用するにあたり、課題となる要因は何ですか。または、国産食品・原材料購入を増やさない（取扱わない）理由は何ですか。該当する項目を3つまで選択してください。

- 1 値段が高い
- 2 ロットが確保できない
- 3 安定供給性に欠ける
- 4 取引先(消費者)が求めている
- 5 輸入野菜・原材料の方が品質・味が良い
- 6 輸入野菜・原材料の付加価値（原産地、機能性など）
- 7 国内で生産されていない野菜がほしい
- 8 災害等のリスク分散
- 9 その他〔具体的に記入してください〕
- 10 特になし

問7 今後、国産の加工・業務用野菜の利用割合を増加させていくために必要と思うことは何ですか。該当する項目を3つまで選択してください。

- 1 価格の低下
- 2 安全性・信頼性
- 3 安定的な数量確保
- 4 高品質化等の差別化
- 5 規格の多様化
- 6 その他〔具体的に記入してください〕
- 7 特になし

○問1「1 ある」選択者のみ（問1「2 ない」選択者は問12へ）

問8 加工・業務用野菜として、現在取扱っている品目はどれですか。取扱量の多いもの上位3品目をお教えてください。

区分	1位	2位	3位
だいこん			
にんじん			
ごぼう			
はくさい			
キャベツ			
ほうれんそう			
ねぎ			
ブロッコリー			
レタス			
トマト			
かぼちゃ			
えだまめ			
さといも			
たまねぎ			
にんにく			
その他〔具体的に記入してください〕			
該当なし			

●問9-1～問9-4は、問8でお答えいただいた取扱い上位3品目について伺います。

問9-1 仕入れている加工・業務用野菜の形態は何ですか？

上位3品目ごとに該当する項目をそれぞれすべて選択してください。

区分	1位の品目	2位の品目	3位の品目
原体			
カット（チルド）			
カット（冷凍）			
皮むき			
乾燥（ドライ品）			
粉末・ペースト			
冷凍			
その他〔具体的に記入してください〕			
該当なし			

注1) 原体野菜：生鮮野菜（ホール野菜）。販売に当たり、販売単位の小型化のため、切断やパック包装等を行った野菜を含む。

注2) 「カット（チルド）」、「カット（冷凍）」、「皮むき」、「乾燥（ドライ品）」、「粉末・ペースト」、「冷凍」については、野菜だけでなく、肉など他品目と組み合わせたミックス品を含む。

問9-2 過去1年間の年間取扱量はどの程度ですか。

上位3品目ごとに該当する項目をそれぞれ1つ選択してください。

	1位の品目	2位の品目	3位の品目
1 t未満			
1 t以上3 t未満			
3 t以上5 t未満			
5 t以上10 t未満			
10 t以上30 t未満			
30 t以上50 t未満			
50 t以上100 t未満			
100 t以上			
わからない			
該当なし			

問9-3 国産品割合はどの程度ですか。

上位3品目ごとに該当する項目をそれぞれ1つ選択してください。

	1位の品目	2位の品目	3位の品目
取扱なし			
20%未満			
20%以上40%未満			
40%以上60%未満			
60%以上80%未満			
80%以上100%未満			
100%			
わからない			
該当なし			

問9-4 国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向をお聞きします。

上位3品目ごとに該当する項目をそれぞれ1つ選択してください。

	1位の品目	2位の品目	3位の品目
増やしていきたい			
現状維持			
減らしていきたい			
わからない			
該当なし			

○問1「1 ある」選択者のみ

問10 過去1年間の、加工・業務用野菜の取扱総額はおおよそどのくらいですか。

最も近い項目を1つ選択してください。

- 1 取扱なし
- 2 100万円未満
- 3 100万円以上300万円未満
- 4 300万円以上500万円未満
- 5 500万円以上1,000万円未満
- 6 1,000万円以上3,000万円未満

- 7 3,000万円以上5,000万円未満
- 8 5,000万円以上1億円未満
- 9 1億円以上3億円未満
- 10 3億円以上5億円未満
- 11 5億円以上10億円未満
- 12 10億円以上30億円未満
- 13 30億円以上50億円未満
- 14 50億円以上
- 15 わからない

問11 現在使用している加工・業務用野菜のうち、国産の使用量及び割合は、新型コロナウイルスの影響を受ける前（令和2年1月以前）と比較してどのように変化しましたか。

該当する項目を1つ選択してください。

	使用量	割合
増加した		
変わらない		
減少した		
わからない		

●ここからは、有機野菜（「有機農産物の日本農林規格（有機 JAS 規格）」の基準に従って生産された農産物）についてのご意見・ご意向を伺います。

問12 有機野菜の加工・業務用利用に対する今後の意向をお聞きします。

該当する項目を1つ選択してください。

- 1 増やしていきたい
- 2 現状維持
- 3 減らしていきたい
- 4 わからない

（全員）

問13 加工・業務用に国産有機野菜を利用するにあたり、課題となる要因は何ですか。

または、加工・業務用に国産有機野菜を利用していない理由は何ですか。

該当する項目を3つまで選択してください。

- 1 値段が高い
- 2 ロットが確保できない
- 3 安定供給性に欠ける
- 4 取引先（消費者）が求めている
- 5 輸入有機野菜・原材料の方が品質・味が良い
- 6 輸入有機野菜・原材料の付加価値（原産地、機能性など）
- 7 国内で生産されていない有機野菜がほしい
- 8 災害等のリスク分散
- 9 その他〔具体的に記入してください〕
- 10 特になし

問14 今後加工・業務用に有機野菜の利用を増加させるために必要だと思うことは何ですか。

該当する項目を3つまで選択してください。

- 1 価格の低下
- 2 安全性・信頼性
- 3 安定的な数量確保
- 4 高品質化等の差別化
- 5 規格の多様化
- 6 その他〔具体的に記入してください〕
- 7 特になし

【調査の概要】

1 調査の目的

加工・業務用野菜に係る製造業、卸売業、小売業、外食・中食業者等の実需者ニーズに関する意識・意向を把握し、今後の加工・業務用野菜関連施策の検討のための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の対象

事業所母集団データベースに登録されている企業等のうち、2016年経済センサスにおける日本標準産業分類における中分類が「食料品製造業」、「飲料・たばこ・飼料製造業」、「各種商品卸売業」、「飲食料品卸売業」、「各種商品小売業」、「飲食料品小売業」、「宿泊業」、「飲食店」又は「持ち帰り・配達飲食サービス業」のいずれかであり、農産物の取扱い及び売上金額がある事業所（支所・支社・支店を除く。）

3 調査事項

加工・業務用野菜の取り扱い状況、国産の加工・業務用野菜の利用に対する今後の意向、国産の加工・業務用野菜を利用する利点等

4 調査期間

本調査は、令和3年9月下旬から10月中旬までの間に実施した。

5 調査方法

民間事業者が調査票を郵送し、調査対象が記入した調査票を郵送又はオンラインにより回収する方法により実施した。

6 集計方法

各項目とも、単純に積み上げ集計した。

7 調査対象数、有効回答数及び有効回答率

調査対象数、有効回答数及び有効回答率は次のとおりである。

区分	調査対象数	有効回答数	有効回答率
食品製造業	1,000 事業所	422 事業所	42.2%
食品卸売業	1,000 事業所	461 事業所	46.1%
食品小売業	1,000 事業所	412 事業所	41.2%
外食産業	1,000 事業所	396 事業所	39.6%

8 調査における留意点

本調査は、調査対象の意識・意向を把握することを目的に実施したものであり、有効な回答を全国値として推計したものではないことから、利用に当たっては留意する必要があります。

【ホームページ掲載案内】

○ 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

○ この結果の分野別分類は「農林水産行政等に対する意識・意向調査」に分類しています。

【 <https://www.maff.go.jp/j/finding/mind/index.html> 】

お問合せ先

◎本調査結果について

農林水産省 農産局
園芸作物課 園芸流通加工第1班
電話：（代表）03-3502-8111 内線：4790
（直通）03-3501-4096
F A X： 03-3502-0889

◎食料・農林水産業・農山漁村に関する意識・意向調査について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 統計解析班
電話：（代表）03-3502-8111 内線：3580
（直通）03-3502-5631
F A X： 03-3501-9644

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 統計広報推進班
電話：（代表）03-3502-8111 内線：3589
（直通）03-6744-2037
F A X： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>